

WATER WORKS

水から、始まる。
2020

25th
Anniversary
Edition

水から、始まる。
セディアグループ



渡辺パイプは環境省が推進する「Water Project」に賛同しています。



SEDIA SMILE
PROJECT
次へ。

これまでも、そしてこれからも。
セディアグループは持続可能な未来への取り組みを進めます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



人と、地域と、社会と、自然との共生を第一に、しあわせを明日へつなぐ取り組みを、セディアグループの水と住まいと農業の事業領域を中心に行っています。

水・住まい・農業の明日へ。そこにセディアシステム

渡辺パイプ株式会社

〒104-0045 東京都中央区築地5-6-10
浜離宮パークサイドプレイス6階
TEL.03-3549-3111 FAX.03-5565-6374
<https://www.sedia-system.co.jp>



水の日、8月1日に

「WATERWORKS」を

創刊して25年。

水への想いと、

その歴史を

この一冊に

まとめました。

水はすべての源であり、すべては水から始まりました。セディアグループの始まりも水の領域から。1本のパイプをお客さまのところへ運ぶことからスタートしています。自然災害が多発する昨今、水の大切さとありがたさを改めて実感している方も多いのではないのでしょうか。セディアグループはそんな水のすばらしさ、水の働き、水の役割について、毎年一冊の冊子にまとめ、水の日にあたる8月1日に発行してきました。それが「WATERWORKS」です。今年は回を重ねて25号目をお届けすることができました。これを機に、これまでの内容を振り返ると共に、かけがえのない水の恵みと働きをわかちあいたいと思い、このダイジェストにまとめました。ページをめぐっていただけ、水への想いを馳せる時間を共有できなかったとしたら、こんなにうれしいことはありません。どうぞ「ゆっくり」と「寛く」ください。

渡辺パイプ株式会社

代表取締役社長 渡辺 元

Everything is from
water.



地球も、



自然も、



人も



社会も。



水から、
始まる。

万物は水から生まれ、

文明は水のほとりで栄えました。

すべては水から始まります。

そして私たちセディアグループも

水から始まり、水から未来を考えています。

Everything is from
water.

Everything is from
water.

社会

Society

農業はもちろん、工業もまた、
たくさん水を必要としています。
そして私たちの身体の6割は
水でできています。
元気で快適な暮らしにとって
水は欠かすことのできない
宝物です。



生命

Life

すべての命の源は水。
生命は水のなかで
生まれました。
それから約36億年。
どの時代においても
生命にとって水は
かけがえのないもので
ありつづけています。

すべては、

地球

Earth

地球の誕生は約46億年前。
太陽からの幸運な距離のおかげで
地球には水が誕生。
その水の存在が地球を
生命の惑星にしたのです。

自然

Nature

空から降り注ぐ雨。
そして風と光。
土壌が豊かになり、
その栄養を吸い上げて
木は茂り、
それを求める生物が
集まってくる。
その循環もまた、
水から始まっています。

水から始まる。

水、住まい、農業。
生活インフラもまた、
水から始まります。



朝、起きると、水道の蛇口から新鮮な水が出てくる。シャワーを浴びる。食事を作る。人の営みのすべてに水があります。電化製品を造る工場も、食材を育てる農場も水なくしては成り立ちません。セディアグループの事業フィールドである生活インフラもまた、水から始まり、水によって支えられているのです。そんな生活インフラの向上に貢献するセディアグループは、その維持と発展のために取り組むお客さまや、元気で快適な暮らしのための製品を造りだすメーカーさまのパートナーとして、さまざまな価値と機能とサービスを提供。元気で快適な生活インフラの未来へ貢献していきます。

人と暮らしを

応援する

企業で

あるために。

いつの時代も。

Everything is from
water.

our mission & promise

01

水から始まり、
水と共に成長する。

すべての生命が水から生まれたように、セディアグループも水の領域から生まれ、住まい・農業へと事業を広げてきました。各事業の基本にあるのもまた、水。暮らしも食も水なくしては成り立ちません。水の未来を考へることはセディアグループの事業の未来を考へること。水と共に未来へ向けて成長していきます。

02

水のような
かけがえのない役割を、社会へ。

セディアグループの事業の根源に水があるように、社会の基盤には水があります。水を生み出し、水を育み、水をつなぎます。水は私たちに潤いをもたらします。そんな水のような創造と育成を社会へ届けることがセディアグループの使命。水のように未来への成長になくてはならない存在をめざしていきます。

03

水を守る。水をつなげる。
街へ、暮らしへ、次代へ。

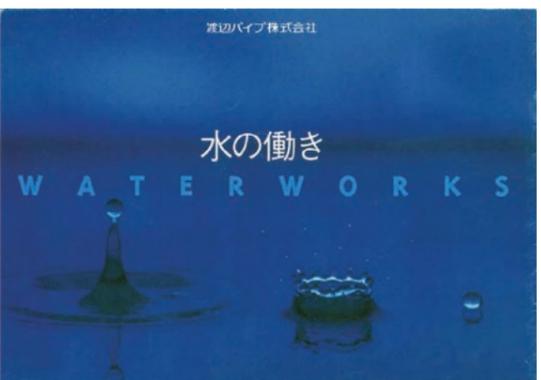
水道、それは町から街へ水をつなげる尊い道。住まい、それは暮らしを育むやすらぎの空間。そして農業は、命を育み、次の命への源泉となっていくもの。セディアグループはどの時代も必要とされる水のように、未来を豊かに潤していく活動を展開。いつの時代も水を通して、人と暮らしを応援する企業でありつづけます。



WATERWORKS VOL.1~25

「WATERWORKS」
創刊は1996年。
さまざまな角度から
水の働きを紹介してきました。
創刊25年を記念して、
これまでの内容を
ダイジェストで紹介いたします。
くわしくは渡辺パイプの
ウェブサイトでご掲載しています。
そちらもぜひご覧ください。





WATERWORKS VOL.01

1996/08/01

WATERWORKSの第1号のテーマは「水が運ぶもの」。文明や暮らしや社会の発展は水の働きなくして語ることはできません。「世界の水をめぐる話」や「幸福」をつなぐパイプの役割など、豊かな暮らしを築くために貢献してきた水の働きと役割について紹介しています。

世界の水を めぐる話。

水が豊かなところ、水が貴重なところ。世界の国々によって、水の環境は異なっています。ローマ以前に古代水道がアジアにあった話や、江戸時代の地主が水について悩んでいたこと、サハラ砂漠の水の株式制度など、水をめぐる世界のトピックスを集めています。



日本における 水道の発達。

3代将軍徳川家光は参勤交代制度を導入。江戸の人口60万。そのためにはもっと大規模な水道が必要不可欠。世界でも類を見ない大都会、江戸の繁栄を支えたのは水道の発達でした。そんな江戸上水から、すべてががらりと変わった明治時代の近代水道について、そして世界でも有数の水質を誇る現代水道の発展についてレポートしています。さらに水道の発達に欠かせないパイプについて、その歴史の他に、1本のパイプを運ぶところから始まったセディアグループの想いも紹介しています。



くわしくは
こちらを
ご覧ください。



WATERWORKS VOL.03

1998/08/01

第3号のテーマは「水の不思議」。やさしく清らかな水はときに強靱な手カラを発揮したり、とてつもないエネルギーを秘めていたり、びつくりすることに使われていたりします。そんな水の不思議についてさまざまな角度からアプローチしています。

富士山は 巨大な貯水池。

富士山は3,776メートル、日本一高く美しい山。年間降水量が約22億m³で日本有数の降水量を誇るのですが、その水はどこへ行くのか、富士山の水の不思議から始まり、海には重い水と軽い水があつて、それが原因で船が後ろへひっぱられる理由などを紹介しています。

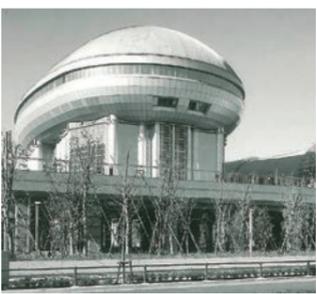


くわしくは
こちらを
ご覧ください。



物を切るなど、 水のいろいろなチカラ。

約540万m³。東京都が行っている下水道処理水の一日の量です。その水はきちんと処理され、さまざまな工業用水にリサイクルされています。また、水と石炭の不思議な関係や、最高400MPa、000kgf/cm²にまで高めた超高圧水をマッハ3(コンコルド旅客機の約1.5倍)のスピードで噴射するウォータージェットという技術が、人工大理石の加工やさらには肝臓などの柔らかい臓器の手術に使われていることなどを紹介しています。



水・源・シ

第2号のテーマは「水源」。おいしい水について、水の味いから、快適と便利を生み出す水や、命を育む水の不思議について、さらには地球の水の危機まで。水について、その過去を縦横無尽に紹介しています。

水が作り出す 味わい。

命を育む水からよりおいしくいただくための水へ。おいしい水の定義から始まり、ミネラルウォーターについて、そして日本料理は水の料理といわれるように、煮物、汁物をはじめ、下ゆでしたり、煮ごぼしたり、料理に大量に用いられる日本の水の特徴について。おいしさを生み出す水の働きについて紹介しています。



快適と便利は 水から。

入浴の習慣はお寺の浴室からという驚きの事実や、日本の洗濯機の始まり、そして命を育む水の不思議へ。最後は水の惑星・地球が抱える現在の水の危機について。快適で便利な暮らしに欠かせない水だからこそ、将来へ向けて私たちが心がけたいことについても言及しています。



くわしくは
こちらを
ご覧ください。



WATERWORKS VOL.02

1997/08/01

21世紀は水の世紀

第4号のテーマは「21世紀は水の世紀」。世界の都市が格段に進歩した21世紀。その根底には水の働きがありました。都市の発展を支えた水について、前半は東京を中心に紹介。そして後半は世界の都市における水戦略や水道事情をレポートしています。

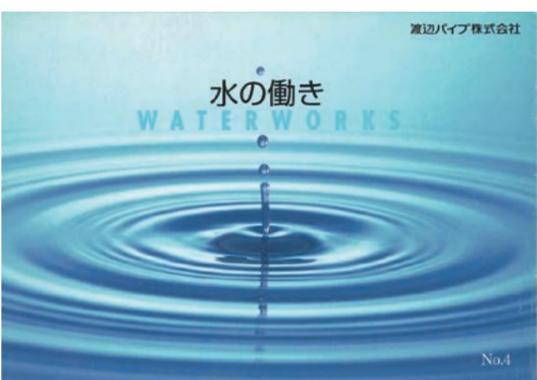
東京の水道の 現在・過去・未来。

急増する人口と増え続ける水需要のために改良工事を行いつづけた東京の歴史から始まり、明治・大正・昭和の3代にわたって都心部への給水の動脈源として、東京の水道の代名詞でもあった淀橋浄水場の役割について紹介。さらに安全で安心で、おいしい水道水への取り組みをレポートしています。



世界の都市における 水戦略と水道事情。

海水を利用して都市の水需要に応える香港。水を輸入しているシンガポール。行政と民間が協力して展開しているバリの水道事業など。各都市の水への取り組みを紹介。無限の水から貴重な水へ、水に対する意識は世界的に大きく変わり始めています。地球環境との共生を図りながら、21世紀も「元気で快適な生環境」を提案しつづけていくセディアグループの想いも紹介しています。

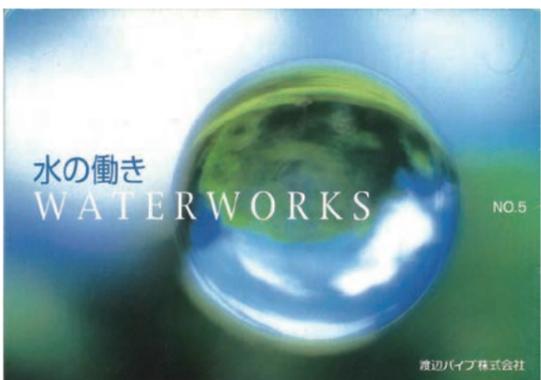


WATERWORKS VOL.04

1999/08/01

くわしくは
こちらを
ご覧ください。





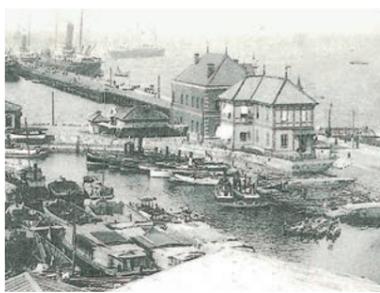
WATERWORKS
VOL.05
2000/08/01

知られざる水の道

第5号のテーマは「知られざる水の道」。長崎や横浜を例にした近代水道誕生秘話から始まり、土の下を走る水の道についてまで。私たちが普段あまり気にすることのない水の道の成り立ちや、その水環境についてスポットを当てています。

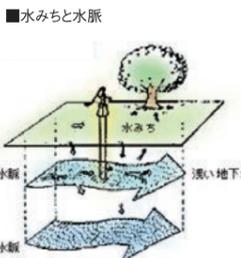
近代水道誕生秘話。

長崎へ行かなければ文化人にならないとまでいわれた、江戸時代唯一の海外への窓口だった長崎。1859年に突然欧米に向けて開港することが決まり、数ヶ月で街作りを行った横浜。二つの港街に着目して、近代水道への礎となる、近代水道誕生秘話を紹介しています。



地下の水環境をひもとく「水みち」。

井戸が枯れるのはなぜか？湧き水はどこから来るのか？地下水の詳細についてはまだまだわからないことが多いようです。そんな地下水の水を「水みち」と名付けて、「井戸と水みち」共生している木と水みち」上下方向にも作られる水みち」などをテーマに地下水の水の道をレポートしています。



くわしくはこちらをご覧ください。
「水みちと水脈」



健康とおいしい水

第6号のテーマは「健康とおいしい水」。健康のために水は必要だということは誰もが知っていますがその理由を問われるとどうでしょう。命と健康のために水がなければならぬ理由についての紹介から始まり、実はおいしい水道水の秘密へ迫ります。

水でなければならぬ理由。

水がなければ生きることができないといわれていますが、その水とは実際どんな物質なのか。食べ物をおいしくする水の役割から、脱水症状の原因、さらには健全で、健康に生活するための水の摂取方法まで。水の驚くべき機能と役割を紹介しています。

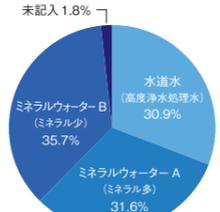


会津の水で打った生粉打ちそば。そばはそば粉と水でつくる。「水のうまさ、まずさだけはごまかしようがない」という。

水道水はおいしい。

ミネラルウォーターは水道水よりおいしいというこれまでの常識が覆されようとしています。おいしかった水アンケートでは、ミネラルウォーターと肩を並べた東京の水道水。そのおいしさを生み出す、江戸川沿いに広がる金町浄水場を訪れて、雑菌も臭いもみごとに処理する高度浄水処理の仕組みを取材。びっくりするほどおいしくなっている東京の水道水の現状をレポートしています。

「おいしかった水はどれですか？」



「水の味くらべ」結果 平成10年7月19日 水道ふれあい広場(金町浄水場)にて、392人のお客様に、水の味くらべをしていただきました。



WATERWORKS
VOL.06
2001/08/01

雨に濡れる宮が瀬ダム

第8号のテーマは「雨に濡れる宮が瀬ダム」。ダムにはしばしば非難の目が向けられますが、ダムは本当に無駄なのでしょうか？ダムがあつたから文明が発達したのも事実。ダムの歴史と共に、ダムのことを深く知ることができると特集になっています。

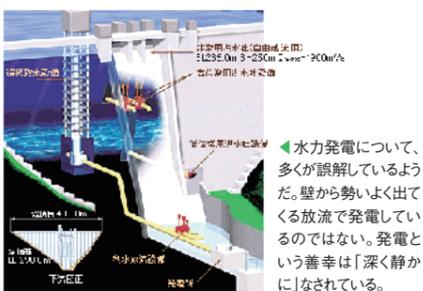
ダムはムダじゃない。

古代から現代にかけて、ダムが果たしてきた役割を振り返ると共に、現存する日本最古のダムを紹介。さらには現役のダムとして活躍する一方、観光地としても見応えたっぷりの宮が瀬ダム(神奈川県)などを紹介しています。



「洪水吐」、さあどう読む？」

ダムの目的のひとつが洪水を防ぐこと。「洪水吐」とは宮が瀬ダムにある選択取水設備の名称で「こうずいばき」と読みます。貯水と放流のバランスや仕組み、さらには水を自在に操るダムの構造についてまで。高さ156m、総貯水量約2億m³、首都圏最大のダムの中へ潜入して、機能とその構造を具体的に紹介。洪水から都市を守る仕事についても言及しています。



◀水力発電について、多くが誤解しているようだ。壁から勢いよく出てくる放流で発電しているのではない。発電という善事は「深く静かに」なされている。

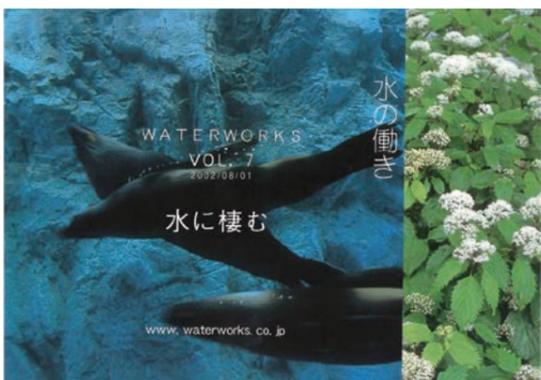
くわしくはこちらをご覧ください。
「雨に濡れる宮が瀬ダム」



WATERWORKS
VOL.08
2003/08/01

水に棲む

第7号のテーマは「水に棲む」。水道の歴史は古く、水の恵みや働きを調べるとその世界は奥深いものがあります。その「この号では、水に関する知識をランダムに紹介。水道の話から真水に棲む海獣。そして多摩川上流処理場訪問記を綴ります。



WATERWORKS
VOL.07
2002/08/01

真水に棲む、海獣。

生命に水が欠かせないのならば、生命の博物館である動物園では、水はいったいどれだけ重要なのか？そんな疑問から「よこはま動物園ズーラシア」を訪問。動物園における水事情を調べるとおもしろい話題がたくさん見つかりました。



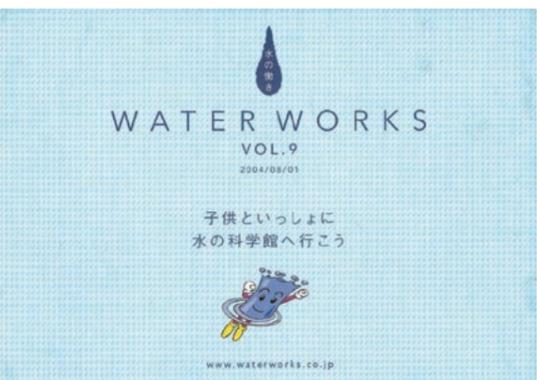
多摩川上流処理場訪問。

都市に下水道がなかったらどうなるか。かつて欧州で蔓延したコレラの原因がそこにあることがご存知の通り。都市の排水を適切に処理して安全な水にする。そんな下水の処理についてのレポートが「多摩川上流処理場訪問」。生活排水を魚が棲めるまでにキレイにして戻す。そんな驚くべき処理機能のおかげで、都会の川がどんどんきれいなっていることがわかります。



くわしくはこちらをご覧ください。
「水に棲む」





WATER WORKS VOL.09

2004/08/01

子供といっしょに 水の科学館へ行こう

第9号のテーマは「子供といっしょに水の科学館へ行こう」。水のアミューズメントパークである「東京都水の科学館」を訪問して、そこで学んだり、体験できたりする、驚きいっぱい水の不思議について紹介しています。

水の科学館で遊ぶ。

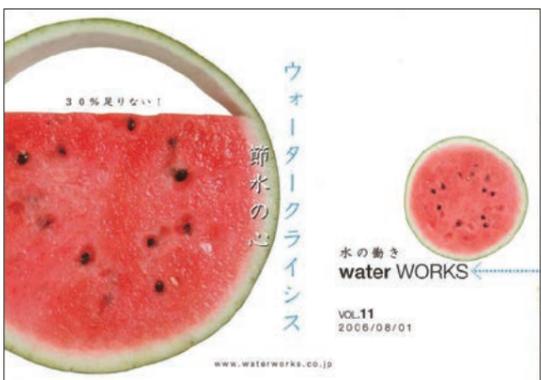
「東京都水の科学館」は本物の給水所の上に建っています。もちろんそこも見学でき、アクア・ツアーと呼ばれるアトラクションで、実際の水道の姿をまのあたりにできるのです。あまり知られていない、親子で学びながら楽しめる水の科学館取材しています。



くわしくはこちらをご覧ください。

一瞬で、沸騰して凍る。

「東京都水の科学館」には、家庭や学校ではなかなかできない実験や展示がいろいろあります。真空中で水が凍ることを実験できる施設や、「カラダの水分量」というコーナーでは人間の水分量をわかりやすく展示。大人と赤ちゃんの水分量の違いや、やせた人と太った人ではどちらの水分が多いかも一目瞭然。さらに自分の水分量も計ることができます。



WATER WORKS VOL.11

2006/08/01

ウォータークライシス 節水の心

第11号のテーマは「ウォータークライシス節水の心」。地球は水の惑星といわれていますが、実はほとんどが海水で、利用できる水はごくわずか。そこに昨今の水不足が重なって危機的な状況になりつつあります。そこで大切な節水への取り組み。この号ではいろいろな角度から節水について紹介しています。

未来の水不足を救うか 海水淡水化施設。

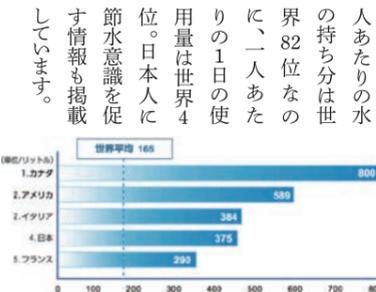
水不足の危機を救う技術が熟成しつつあります。海の水が飲み水へ。海水があつという間に淡水になる施設が本格的に稼働しています。この号では福岡市にある「海中道奈多海水淡水化センター」を訪問。最先端の技術を導入して、ローコスト造水を可能にした海水淡水化施設取材しています。



くわしくはこちらをご覧ください。

節水名人の動物と 節水クイズ。

過酷な状況でも少ない水で生き延びる動物の知恵や生態。節水のススメとなるクイズ。そして世界各国の地域によって異なる水との付き合い方、さらには節水意識の薄い日本人の意外な実情など。未来のためにも欠かすことのできない節水へのヒントとなる情報を紹介。日本人一人あたりの水



水に暮らす人

第10号のテーマは「水に暮らす人」。人は水と共に生きています。登山家、農家、浄水場職員、水道工事職人、料理人、サーファー、船乗りなど、水と深い関わりを持つ人々を取材して、暮らしや仕事と水との、切っても切れない関係をレポートしています。

登山家と農家の水の話。 水道工事職人と料理人の水の話。

鉄砲水の見極め方を教えてくれる登山家。水は上からしか降りてこない自然の摂理を説く農家さん。そしておいしい水道水と浄化することに誇りを抱く浄水場職員など。それぞれの水への畏怖と感謝を紹介しています。



人々の生活に欠かせない水に関わる仕事にやり甲斐を感じている水道工事職人。料理のおいしさは水が左右すると言いつける料理人。波は沖から岸へとしか流れない理由を単純明快に教えてくれるサーファー。そして常に水と生きつづけてきた漁師など。仕事と水、暮らしと水、そして人生と水について語る姿をレポートしています。



くわしくはこちらをご覧ください。



WATER WORKS VOL.10

2005/08/01

京都を蘇らせた 琵琶湖疏水

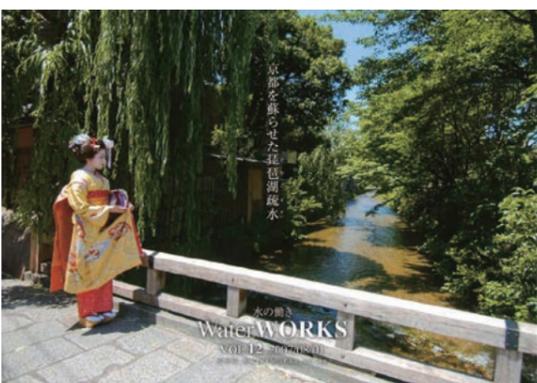
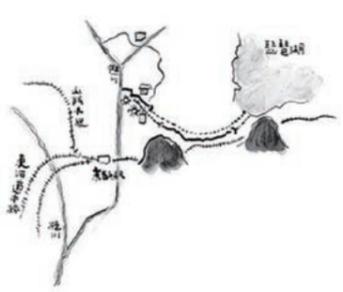
第12号のテーマは「京都を蘇らせた琵琶湖疏水」。東京遷都が行われ、京都が衰退の一途をたどっていました。京都を再生させるには産業を振興させなければならぬ。そのためには大量の水が必要となる。そこから始まった琵琶湖疏水誕生の背景をレポートしています。

未曾有の大規模土木工事。 琵琶湖と京都を水路で結ぼう。

琵琶湖疏水の誕生にはさまざまな障壁が立ちました。大規模な落盤事故で命を落とす人もありました。そんな苦難を経て完成した琵琶湖疏水。1000年先の京都の未来を想って作ったという水の道は、その後の京都にどのような繁栄をもたらしたのでしょうか。後半では琵琶湖疏水記念館館長にその恩恵と役割について取材しています。



くわしくはこちらをご覧ください。



WATER WORKS VOL.12

2007/08/01



WATER WORKS VOL. 13

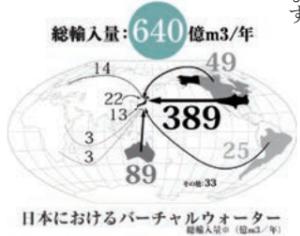
2008/08/01

牛丼 約2³m³ 水資源の新発想 バーチャルウォーター

第13号のテーマは「水資源の新発想バーチャルウォーター」。目には見えなけれど動物や穀物のカチで存在している水についての定義。この号ではバーチャルウォーター研究の第一人者・沖大幹教授に「登場いただきたくわしく教えてください。」

計算してみれば
日本が世界一。

小麦1キロを生産するには水は1,000ℓ必要と噂されてきました。実際計算してみると、小麦はその2,000倍の200万ℓ必要なことがわかりました。日本のバーチャルウォーター総輸入量は約640億m³/年。輸入から輸出を差し引いた純輸入量としては、世界一の国は日本であることが判明。また、日本は淡水取水量の7割を農業用水に使っていることなど、水資源の新たな一面を紹介しています。



日本におけるバーチャルウォーター
総輸入量 (億m³/年)



沖教授によるバーチャルウォーターの定義。

1990年にロンドン大学のJ・アソニー・アラン教授が提唱したバーチャルウォーター。その定義をさらに厳密にしたのが沖教授です。この号では沖教授に取材してバーチャルウォーターとはどのような考えなのか、その定義とは何か、詳しくお伺いしました。

くわしくは
こちらを
ご覧ください。

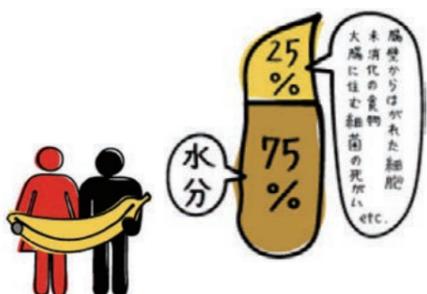


ウンチのゆくえ

第14号のテーマは「ウンチのゆくえ」。人前では大きな声で話せない話題でも「ウンチは腸からの手紙」といわれるほど大切なもの。しかし用を足した後のウンチはどこへ行くのか、知っているようで実は知らない人が多いもの。そんなウンチのゆくえを特集しています。

いたってマジメな
ウンチの話。

人種、貧富の差、宗教、老若男女に関係なく、人はみな等しくウンチをします。だからこそあえて理想の色やカタチやサイズ、1日のウンチの量、そしてウンチは何でできているかなど、人に聞けないウンチについて紹介しています。



ウンチは
長い旅をする。

トイレで流されたウンチはどうなるのでしょうか。そんなウンチのゆくえを追ってみました。地下に埋設された下水道から実に長い旅をして、処理され、浄化され、海や川へ放流されます。この号では汚水を浄化する森ヶ崎浄化センターを訪れ、約13時間かけてきれいな水になる仕組みもお伺いしました。

くわしくは
こちらを
ご覧ください。



WATER WORKS VOL. 14

2009/08/01

水力発電の 過去・現在・未来

第16号のテーマは「水力発電の過去・現在・未来」。日本の電気史の幕開けともいわれる水力発電について、その歴史、現在の役割、そして未来へどのような期待をされているかを特集しています。

日本の電気史の
幕開け。

日本ではいつから水力発電が行われてきたのかという歴史の考察から始まり、本格的な水力発電の運用、水力発電の隆盛と衰退、さらには日本の発電技術の変遷まで。日本の電気史全体を俯瞰して紹介しています。



小水力発電の
大きな可能性を探る。

太陽光発電や風力発電に劣らず、新エネルギーのひとつとして注目されている小水力発電。身近にある水を利用して、電力の地産地消も夢ではないというそのポテンシャルと可能性。そして小水力発電の鍵を担う、いろいろな水車たちを紹介しています。



くわしくは
こちらを
ご覧ください。



くわしくは
こちらを
ご覧ください。



ニッポンの 水の知恵

第15号のテーマは「ニッポンの水の知恵」。「かばた」という言葉を「ご存知でしょうか？家々の前には水路が流れ、透明な水の中では鯉が泳ぎ回る。水と共に生きる地域の知恵の結晶ともいえる「かばた」のある暮らしを中心に、日本の水の知恵を紹介しています。

水を思いやる暮らし。

「かばた」のある暮らし。
滋賀県の湖北、高島市内の針江地区。町の中には水路が張り巡らされ、清らかな水が流れています。この地域では生活用水として使った水を鯉にいったん浄化させてから、この水路に戻しています。それほどのような仕組みなのか？針江地区に約200年にわたって受け継がれている「かばた」のある暮らしを取材しています。

日本にはその他にも水を大切に使うところを長く守りつづけている地域があります。青森県弘前市の富田の清水や岐阜県郡上市の郡上八幡の水舟など、先人の知恵が息づく、水を一滴たりともムダにしない暮らしをレポートしています。



WATER WORKS VOL. 16

2011/08/01



WATER WORKS VOL. 17

2012/08/01

水の神様を訪ねて

第17号のテーマは「水の神様を訪ねて」。古来より農耕と稲作によって生命をつないできた日本人にとって、水神を奉る信仰心はほとんど自然発生的に生じた精神性です。日本の各地に残る水神信仰。その根底にあるものを探りに日本を巡っています。

5つの神社を探访。

東京の「隅田川神社」「亀戸水神宮」。奈良の「丹生川上神社」。京都の「貴船神社」。そして滋賀の「竹生島神社」。いずれも水を奉り、水と縁の深い神社です。日本を代表する神社を訪れて、その由来と歴史、そして水神信仰の奥深さを取材しています。



水神の神話と伝説。

水の神様を語る上で避けては通れない言い伝えや物語がいくつもあります。この号では「龍と水神」「河童と水神」「縁結びと水神」など、不思議と興味をそそるテーマを取り上げ、いろいろな角度からその由来や関係性について掘り下げていきます。



くわしくはこちらをご覧ください。



WATER WORKS VOL. 19

2014/08/01

宇宙の新常識「飲んで、出して、飲む」

第19号のテーマは「宇宙の新常識『飲んで、出して、飲む』」。国際宇宙ステーションではどのように水を使っているのか。水はケタ違いの節約を求められるという宇宙空間での水について特集しています。

水はケタ違いの節約を強いられる。

100円のペットボトルを宇宙までロケットで運ぶと100万円になるとか。だからこそケタ違いの節水が求められるのです。では、洗髪や歯磨きや入浴や排泄はどうしているのか？宇宙空間での水の使い方レポートしています。

火星移住を現実へと導く水再生システム。

宇宙空間では水が貴重であるだけに、そのリサイクル技術も進歩しています。国際宇宙ステーションで宇宙飛行士が健康かつ快適に生活するためには、彼らが日々の生活で排出する廃棄物の処理がカギとなります。炭酸ガス、排水、排泄物、残飯などをゴミと見なさず、再生の資源と考える。その仕組みや取り組みについて紹介しています。



くわしくはこちらをご覧ください。



隠れた水の配達人

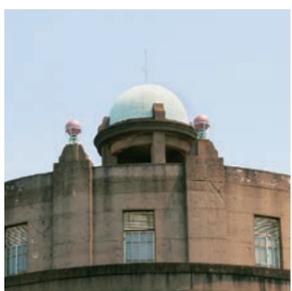
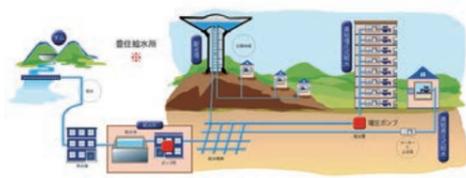
第18号のテーマは「隠れた水の配達人」。川から取水された水は、浄水場において清潔で安全な水へと変わります。その水はどのようにして家庭や工場へ送られるのでしょうか？知っているようで知らない給水の仕組みについて特集しています。

給水の仕組み。

多くの方はあまりご存知ないかもしれませんが、浄水場と家庭や工場の間には、実は給水所が存在しています。その給水の方法には「直結直圧式給水」「直結増圧式給水」、その他にも配水塔を使った方法があります。それら給水の代表的な3つの配水方法を紹介しています。

駒沢給水所へ行く。

給水所ではどのようなことが行われているのでしょうか？この号では、日本の給水史にその名を残すと共に、その重厚でレトロな佇まいが印象的な駒沢給水所を取材しています。また、この人物がいなければ日本の水道の普及は何年も遅れたといわれる、中島鋭治の功績も紹介しています。



くわしくはこちらをご覧ください。



WATER WORKS VOL. 18

2013/08/01

氷河

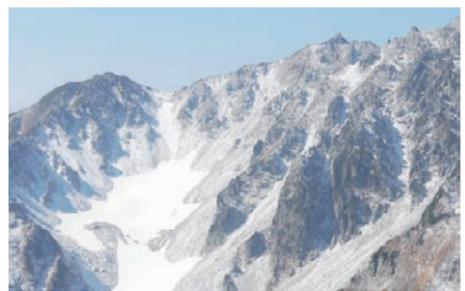
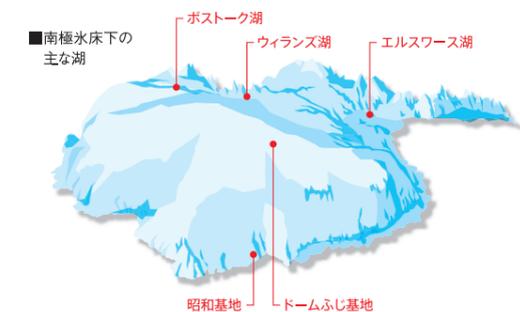
第20号のテーマは「ずばり「氷河」」。氷河はどのようにして生まれるのか、氷河と氷山の違いはどこにあるのかそして氷河の役割とは？未知の生命が眠る奇跡の循環系といわれる氷河にスポットライトを当てています。

氷河とは何か？

氷河は地球上に想像以上に多く存在し、しかもただ存在しているのではなく、人類に少なくない恩恵をもたらしています。そんな氷河の分布から役割、そして氷河や氷山ができる仕組みについて紹介しています。

日本で発見された氷河。

日本でも氷河が発見されていたとは驚きです。どうして日本に氷河があったのか。その理由を探求すると共に、現在の南極氷河の底に眠るまだ見ぬ生命体への言及、さらには氷河の下の循環システムから氷河にまつわるいろいろなうんちくまで。氷河について多方向にわたり紹介しています。

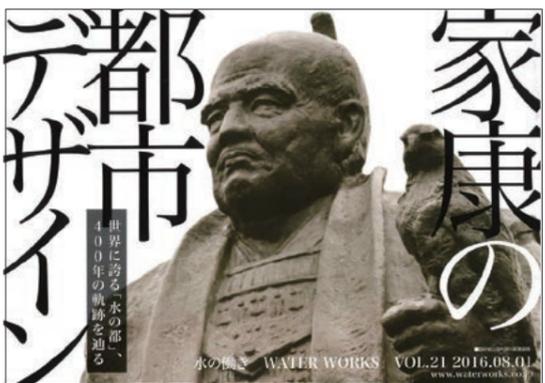


くわしくはこちらをご覧ください。



WATER WORKS VOL. 20

2015/08/01



WATER WORKS VOL.21 2016/08/01

家康の都市デザイン

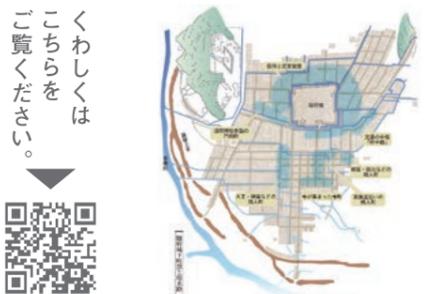
第21号のテーマは「家康の都市デザイン」。知恵と知識そして創意工夫によって、近代国家の礎となる町づくりを成し遂げた徳川家康。下水道の整備「ミ」の収集リサイクル文化が定着したクリーンな都市としても知られている江戸城下町を築きあげた家康の都市デザインを特集しています。

水を活かし、水と暮らす。

水を制するもの、天下を制する。

家康の都市デザインの原点は駿府城にあるといわれています。家康は駿府城下に水路を張り巡らし、水運も発達した機能的な町を築き、駿府型町割は江戸城下にもその原理が応用されています。そんな駿府の町づくりを追っています。

家康の都市づくりは、いかに水を機能的にデザインするかというものでした。城内をくまなく潤す用水路を整備したり、大洪水をもたらす暴れ川、安倍川を水の恵みの川に変える大工事を敢行したり。海、川、水路をつなげた運河で物資の運搬を行ったり。水を制する情熱と知恵が江戸城下町に活かされていることを紹介しています。



WATER WORKS VOL.23 2018/08/01

東京水道名所

第23号のテーマは「東京水道名所」。世界に誇る水道施設を新たな魅力として発信していくために、東京都水道局が都民から意見を集めて「東京水道名所」を決定。この号ではその優れた技術、素晴らしい景観、感動の歴史物語など、数々の魅力ある名所を紹介しています。

水道水源林、最初の一滴。

その他の水道名所を探訪。

「東京水道名所」の人気は多摩川水系。なかでも上流部の水道水源林の気は絶大です。東京都水道局が管理している山梨県の水道水源林の規模や見所を紹介しています。

水の絶景スポット小内貯水池（奥多摩湖）、歴史的建造物でもある村山貯水池（多摩湖）と山口貯水池（狭山湖）、映画にも登場するトンガリ帽子の屋根が印象的な金町浄水所の取水塔など、都内の水道名所を探訪。その歴史や役割をおもしろいエピソードを交えてレポートしています。



くわしくはこちらをご覧ください。



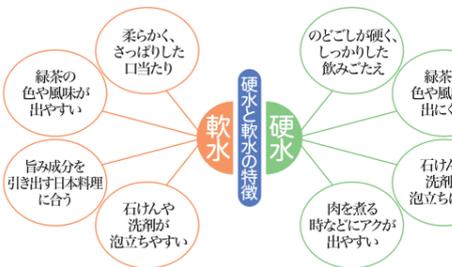
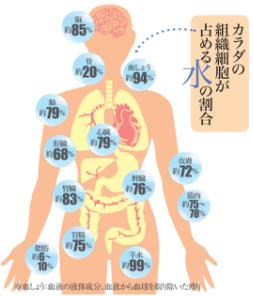
カラダと水の素敵な関係

第22号のテーマは「カラダと水の素敵な関係」。なぜ人には水が必要なのか？脱水症状が起る原理や、身体にとって水は大切ということ等を訴求するだけにどどまらず、さらに「一歩踏み込んで」、その理由について特集しています。

なぜ人には水が必要か？

体を巡る水の旅。

改めて問われると答えに困る、人と水の関係。カラダに良い水から日本人に合う水、現代人におすすめの水、そして美容に良い水や水のチカラでキレイになる方法について、アクアソムリエの山中亜希さんにお伺いしています。



くわしくはこちらをご覧ください。



WATER WORKS VOL.22 2017/08/01

ため池の役割

第24号のテーマは「ため池の役割」。全国に約21万カ所もあるといわれるため池にはどのような役割があるのでしょうか？ため池の誕生の背景やその種類、さらには農林水産省が選定した「ため池百選」からオススメの名所も紹介しています。

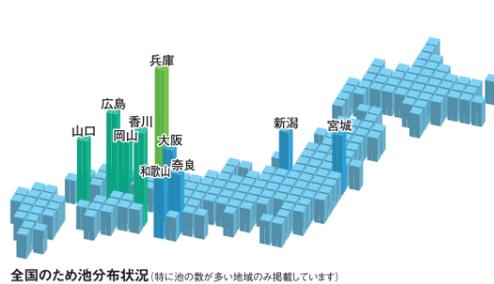
なるほど、ため池の基礎知識。

地域全体がまるごと博物館。

多くは江戸時代から明治時代にかけて、米づくりの農業用水を確保するために作られたというため池。しかしため池にはいろいろな種類があり、近年では農村地域の役割の多様化に伴い、動植物の生息、生育空間、地域住民のやすらぎの空間にも活用されていることなどを特集しています。



くわしくはこちらをご覧ください。



WATER WORKS VOL.24 2019/08/01



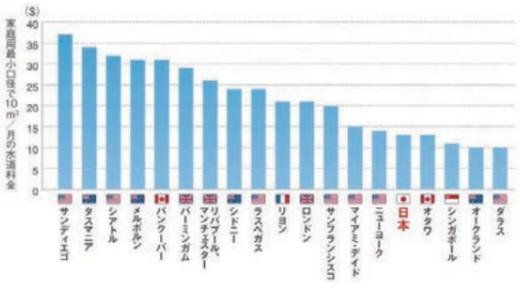
水の働き
WATER WORKS
VOL.25 2020 08/01
www.waterworks.jp

WATER RANKING

第25号のテーマは「WATER RANKING」。当たり前前に存在している水のことをいろいろな角度から眺めてみると、課題も見えてきます。この号では、世界との比較やデータが教えてくれる水の課題、水の未来、そして水の大切さを紹介しています。

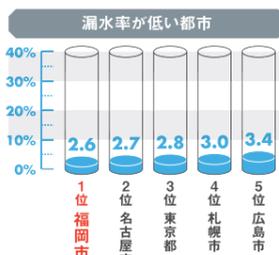
数字で見る世界の水。

所変われば水の事情も変わります。世界の水道料金や水使用量について。そして世界の降水量と水資源や世界の水道水の味と品質についてなど。数字が語る世界の水事情をレポートしています。



日本の水問題。

ところで日本の水事情はどうなのでしょう。蛇口をひねれば水が出るという恵まれた環境に甘えては、健全な未来は訪れません。日本の漏水率から水インフラの老朽化、さらには世界に対する日本の水貢献など、水を守るために、未来を守るために考えなければならぬ課題や役割を紹介しています。

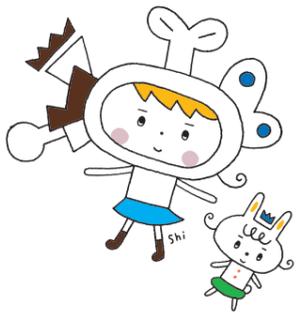


くわしくはこちらをご覧ください。



(出典)「公表された業務指標(P1) 第一覧表 (H23年度)」(日本水道協会)

水の大切さを
伝える
取り組みは
まだまだ
続きます。



グリーン農業 Green

人々が健康を維持し生きていくために食はとても大切です。そして食卓を彩る農産物にもまた、水が欠かせません。全国の農家さまと共にセディアグループも食の未来のために全力で取り組んでいます。

そしてセディアグループは水と共に、生活インフラに貢献します。



暮らし

水と住まい
Lifeline & Lifestyle

健やかな暮らし。日々の営みの源に水があります。朝、蛇口をひねると水が出る。そんな当たり前前の光景を未来にも届けたい。私たちセディアグループはこれからも水と共に歩んでいきます。

水から始まり、
水と共に、
未来へ向かう。
私たちは、
セディアグループ
です。

水のように
力強く、
しなやかに、
かけがえのない
企業をめざす。

Everything is from
water.